Japan Geoscience Union Meeting 2015
(May 24th - 28th at Makuhari, Chiba, Japan)
©2015. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

HDS25-03 会場:101A 時間:5 月 28 日 09:30-09:45

北アルプス上高地，長塀尾根の二重山稜間の線状凹地を埋積する堆積物の層相と年代
Lithology and age of sediments accumulated in linear depressions on the Nagakabe Ridge in Kamikochi, Japanese Alps

小嶋 智 [1*] ; 永田 秀尚 [2] ; 長谷川 勝幸 [1] ; 岩本 直也 [1] ; 小村 慶太朗 [3] ; 金田 平太郎 [3] ; 大谷 具幸 [1]
KOJIMA, Satoru[1*] ; NAGATA, Hidehisa[2] ; HASEGAWA, Yoshiyuki[1] ; IWAMOTO, Naoya[1] ; KOMURA, Keitaro[3] ; KANEDA, Heitaro[3] ; OHTANI, Tomoyuki[1]

[1] 岐阜大学工学部社会基盤工学科, [2]（有）風水土, [3] 千葉大学大学理学部地球科学科
[1]Department of Civil Engineering, Gifu University, [2]Fusuido, Ltd., [3]Department of Earth Sciences, Chiba University

北アルプス南部，上高地北東の徳沢から蝶ヶ岳に至る長塀尾根上には多くの二重山稜地形があり，その多くは山体重力変形地形であると解釈される．これらの地形の発達過程を明らかにするために，二重山稜間の線状凹地を埋積する堆積物をハンドオーガ―ボーリングにより掘削し，層相の記載と年代の推定を行なった．主たる掘削地点は，登山道沿いの標高約 2000m の A 地点と約 2050m の B 地点で，長塀尾根下部の樹林帯に位置する．両地点とも多重山稜地形をなし，その間には凹地あるいは堆積物で埋積された平坦面が認められ，ボーリング掘削は堆積物が最も厚いと推定される平坦面で行い，A, B 両地点で長さ 80?160cm の計 9 本のコアを得た．得られたコアの層相は，腐植土・有機質泥層からなる上部層と黄褐色シルト層（一部礫質）からなる下部層，およびそれらに挟まれる灰色泥?シルト層からなる点で概ね共通しているが，それぞれの層の厚さは掘削地点により異なる．A, B 両地点で掘削されたそれぞれ 1 本のコアについて，テフラ分析を行なった．粒径 62-200 マイクロメーターのフラクションの組成は，砕屑粒子，植物片，火山起源と思われる自形性結晶，火山ガラスなどからなる．火山ガラスはバブルウォール型とパミス型が混在しているが，バブルウォール型火山ガラスは A 地点の長さ 160cm のコアでは深度 87-92cm 付近から，B 地点の長さ 150cm コアでは深度 62-72cm 付近から出現する．これらの火山ガラスの屈折率は 1.510 付近に集中し，鬼界アカホヤテフラの屈折率と一致する．含まれる植物遺体については，現在，放射性炭素同位体年代を測定中で，発表では報告できる予定である．

キーワード: 山体重力変形地形, 二重山稜, 長塀尾根, 上高地
Keywords: deep seated gravitational slope deformation, double ridge, Nagakabe ridge, Kamikochi